

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 長尾 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

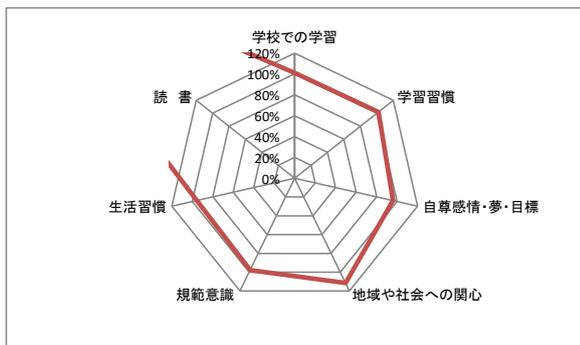
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均とほぼ同程度である。「書くこと」の領域では、全国平均を大きく上回っており、「話すこと・聞くこと」の領域でも、全国平均を上回っている。「読むこと」の領域では、全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よってきた問題	目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題	
	努力が必要な問題	文の中における主語と述語の関係をとらえる問題・分の中における修飾と被修飾の関係をつめる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を上回っている。「図形」の領域では、全国平均を大きく上回っており、「測定」の領域でも全国平均を上回っている。「数と計算」「変化と関係」「データの活用」領域では、全国平均をわずかに下回っている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よってきた問題	三角形の面積の求め方について解答する問題	
	努力が必要な問題	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○1日1時間以上読書をしている児童数が、全国の結果を大きく上回っている。朝自習の読書タイムや、一日中図書室を開放していることが子どもたちの読書活動を後押ししているものだと考える。
○1日当たり1時間以上テレビゲーム(スマホなども含む)をする児童が、全国の結果と比べ、大きく上回っている。特に4時間以上の割合が多い。
○「自分にはよいところがある」と回答した児童が全国平均を下回っている。「北九州市子どもつながりプログラム」の積極的な活用を行い、自尊感情を高めるようにする。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

基本的な学習内容は定着している。朝自習のがんばりタイム(基礎・基本定着問題、診断問題に取り組む時間)を継続して行う。また、必要に応じて個別学習や少人数学習を取り入れ、個に応じた支援を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

テレビゲーム(スマホなども含む)を1日1時間以上する児童が多いことから、家庭でルールを決めて使うように学校通信や学年通信での啓発を行う。